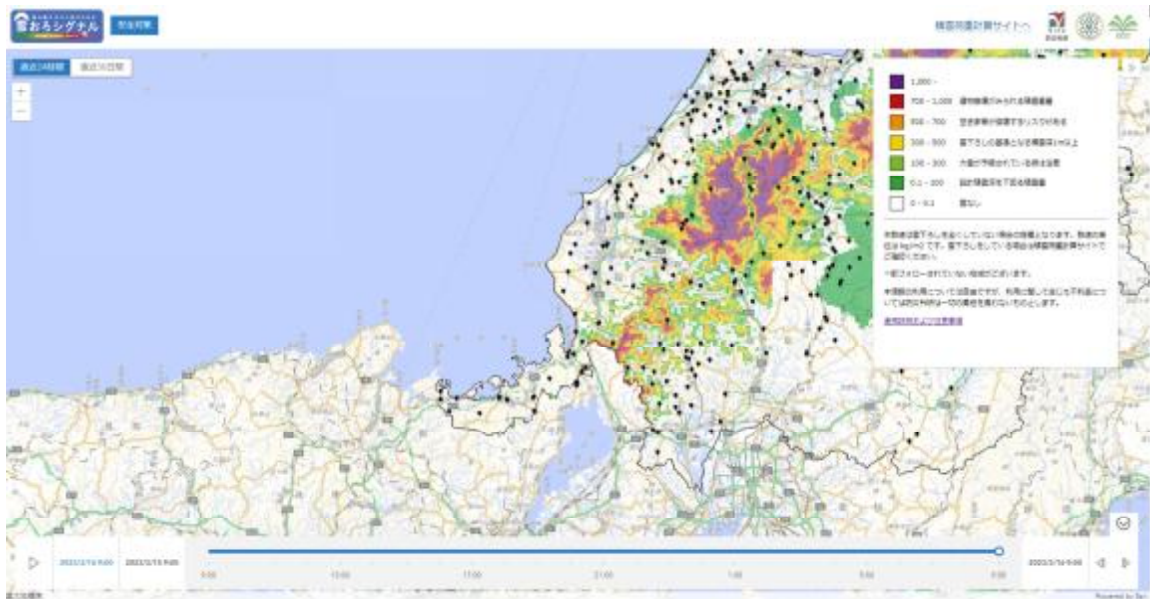


(7) 安全で効率的除排雪を目指した先進的なシステムの構築【方針4 関連】

屋根雪下ろしの必要性を判断する際の一助となる屋根雪の積雪荷重観測システムや、流雪溝の適切な使用のため、雪の投入許容量を超えた場合には注意喚起を行うシステムの構築等、除排雪に関する先進的なシステムの導入により、効果的な情報の発信に努めます。

【安全克雪事業例】

- ①屋根雪の積雪荷重観測システムの構築
- ②流雪溝の適切な使用を促すシステムの構築



「雪おろシグナル」は、雪おろしのタイミングを判断するのに役立ちます。

- ①お住まいの地域の降り積もった雪の重さが分かります。
- ②「雪の重さ」と「危険度」を色分けしています。
- ③すでに雪下ろしをした日を入力することで、あなたの家の屋根にあるリアルタイムの「雪の重さ」を知ることができます。

1,000 -	
700 - 1,000	建物崩壊がみられる積雪重量
500 - 700	空き家等が倒壊するリスクがある
300 - 500	雪下ろしの基準となる積雪深1m以上
100 - 300	大雪が予報されている時は注意
0.1 - 100	設計積雪深を下回る積雪量
0 - 0.1	雪なし

図. 雪下ろしの目安を周知するシステムの先進事例（雪おろシグナル）
 [出典：<https://xview.bosai.go.jp/products/snow-weight/>]

5-3. 事業の実施主体及び実施スケジュールの検討

前項で検討した各種安全克雪事業について、その実施主体（案）と実施スケジュール(案)を以下に整理します。

ここで記載する実施主体については、各事業を効果的・効率的に実施していくため、連携・協働しながら取り組んでいくことが必要不可欠です。

また、実施スケジュールについては、関連する部局や団体等との調整・協議を実施しながら柔軟に見直していくものとします。

表. 事業の実施主体及び実施スケジュールの検討

安全克雪事業		実施主体	実施スケジュール		
			短期	中期	長期
(1)	①克雪住宅の普及促進パンフレット等の作成・配布	市 福井県建築士会勝山支部	←→		
(2)	①命綱固定アンカー設置補助制度の創設	市 勝山市消防本部	←→	→	
	②命綱固定アンカー設置に関するパンフレット等の作成・配布	福井県建築士会勝山支部	←→		
(3)	①除排雪に関するルールづくり	市	←→		
	②ルールをわかりやすくまとめた動画の作成・配信	自治会 民間事業者	←→		
(4)	①雪下ろし講習会の実施	市 勝山市消防本部 自治会	←→	-----→	
	②雪下ろしに関する意識啓発ページ・動画の作成・配信		←→	→	
	③雪下ろし作業に関するルールのチラシ配布		←→		
	④流雪溝使用に関する意識啓発ページの作成		←→		
	⑤流雪溝使用上のルールを周知するチラシ配布		←→		
	⑥除排雪作業の準備体操考案	市	←→	→	
	⑦除排雪作業に備えた体力増進活動	医師会 自治会	←→	→	
	⑧除雪住宅カルテの作成	ボランティア団体等	←→	→	

安全克雪事業		実施主体	実施スケジュール		
			短期	中期	長期
(5)	①「地域ぐるみ雪下ろし支援事業」の拡充と利用促進	市 勝山市社会福祉協議会 勝山市市民活動センター ボランティア団体等	←→		
	②効率的な除排雪作業実施のための資機材の導入		←→		
	③「スポーツ雪かき」等競技イベント要素取り入れた協働体制の構築		←→		→
	④地区単位による要援護世帯への支援		←→	-----→	
(6)	①若い人材の協力によるボランティアの育成	市 勝山市社会福祉協議会 勝山市市民活動センター ボランティア団体等	←→		
	②地域外ボランティアの確保		←→		
	③「勝山雪かき雪下ろしポイント」付与による人材確保		←→		→
(7)	①屋根雪の積雪荷重観測システムの構築	市 民間事業者 学識経験者	←→		→
	②流雪溝の適切な使用を促すシステムの構築		←→		→

5-4. 評価指標の検討

安全克雪事業の取り組みによる成果や効果を点検・評価するための指標を以下の通り設定します。成果や効果の点検・評価は、おおむね5年ごとに実施します。

指 標	現状値	目標値	
		5年後	10年後
① 除排雪作業に関する死傷者数	4人/年	2人/年	0人/年
② 雪下ろし講習会実施回数	未実施	10回/年	10回/年
③ 「地域ぐるみ雪下ろし支援事業」 作業登録者数	250人	375人	500人
④ 非克雪住宅のうちアンカー設置済住宅率	1.9%(*2)	2.0%	2.2%

評価指標設定の考え方については、以下の通りです。

① 除排雪作業に関する死傷者数

克雪対策を講じない場合、現状値と同様の死傷者数となる見込みを示しているが、克雪対策を講じることにより、5年後に現状値の半減の2人、10年後には0人を目標値とする。

② 雪下ろし講習会実施回数

現状では未実施であるが、将来的に毎年10地区1回ずつの開催を目指し10回/年を目標値とする。

③ 「地域ぐるみ雪下ろし支援事業」作業登録者数

現状では250人の登録があり、10年後に登録者数倍増を目指し500人、5年後にその中間値である375人を目標値とする。

④ 非克雪住宅のうちアンカー設置済住宅率

現状では非克雪住宅の1.9%がアンカー設置済住宅であるが、アンカー設置に関する補助等の措置を講じることにより、5年後に10軒増加で2.0%、10年後にさらに10軒増加で2.2%のアンカー設置済住宅率を目標値とする。

第6章. 実現方策

6-1. 総合的な克雪対策の推進

本計画では市全体に係る除排雪作業時の安全対策や体制づくり等に係るソフト事業（豪雪地帯安全確保緊急対策交付金事業）について、雪下ろし作業時のルールとともに検討し、本市における安全克雪事業として位置付けました。

一方、本市では、これまでも国・県と連携しながら、「勝山市総合克雪・利雪・親雪計画」等に基づき、「公助」としての道路や施設に対する雪対策をはじめ、地域や個人に対する支援を行ってきました。

本計画に基づき「雪に勝つ、安全・安心な勝山の地域づくり」を実現していくため、勝山市、地域、個人がそれぞれ「公助」「共助」「自助」の立場と役割を踏まえながら、以上のようなハード・ソフト両面の克雪対策に総合的に取り組んでいくものとします。

また、市全体の総合的な克雪対策を推進しながら、地区単位での克雪対策の展開に努め、より地区の実情に応じたきめ細やかな克雪対策を講じていくものとします。

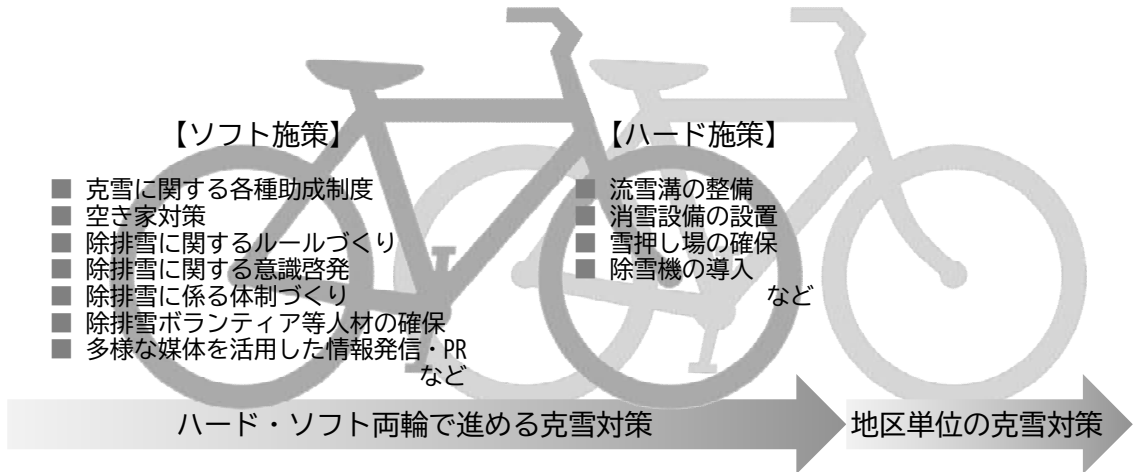


図. 総合的な克雪対策の推進イメージ

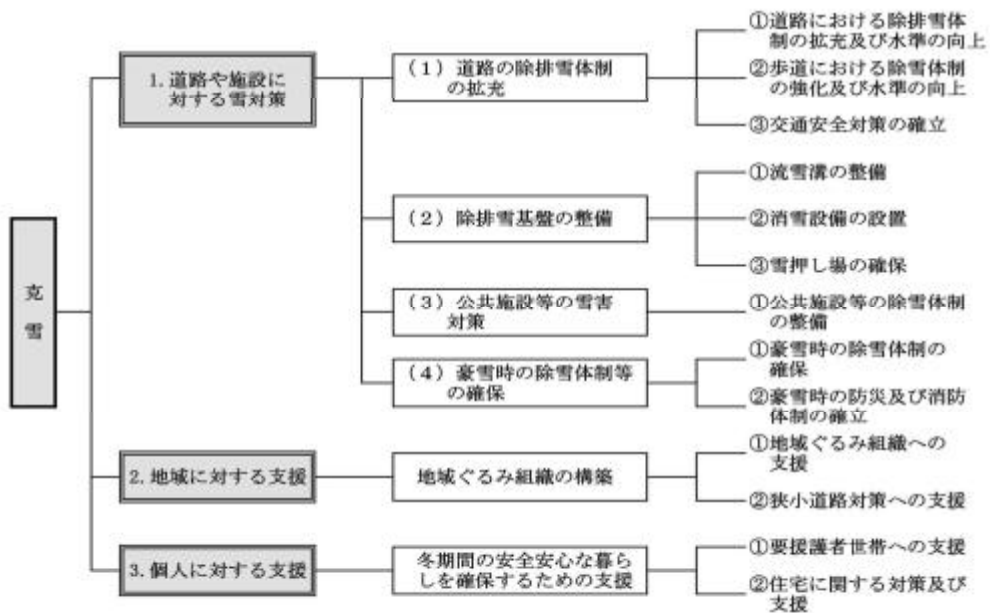


図. 勝山市における克雪対策の施策体系(再掲) 出典：「勝山市総合克雪・利雪・親雪計画」